

ACKGが経営計画強化策

重点化事業1.5倍

ACKグループ（ACKG）は19日、経営計画の強化策を発表した。売上高500億円以上、営業利益20億円以上の

2020年目標を達成する上で、重点化事業の売り上げを1・5倍に引き上げるほか、社員数を500人以上に増やし、そのうち女性社員を100人以上確保するなど組織面

の具体方針を示した。重点化事業の強化には3年間で15億円を投資することも明らかにした。

強化策の柱となる重点化事業は再生可能エネルギー、防災、インフラ保全、交通の4分野とともに、地域活性化や海外戦略、都市再開発なども位置付けている。売り上げ規

模を1・5倍に引き上げるために技術士300人以上、博士40人以上とし、女性管理職を20人以上に増やす。海外戦略の強化に向けて、200人以上のグローバル人材を確保する。

グループの基盤整備では、現地法人設立によるネットワークを構築するため、3年間で10億円を投資する。同社は国内公共、国内民間、海外の3軸市場の特性を踏まえ、グループとしての総合力につなげるとしている。

【ACKグループ 中期経営計画 ACKG2013を強化 「個の強化」など掲げる】

中期経営計画 ACKG2013を強化 「個の強化」など掲げる ACKグループ	
ACKグループは、12年9月策定の中期経営計画「ACKG2013」（13年9月期～15年9月期）を強化した。強化方針として、「個の強化」「連携の強化」「3軸市場の競争力強化」を掲げている。	2020年のビジョン・スローガンとして、「社会インフラ創造企業（自らが社会を創造する担い手となる）」を掲げ、2020年の目標を達成すべく、スタートから2年が経過した。基本方針の「強みの活用」「事業創造」「育成と連携」に基づく施策を推進し、順調に進捗している。このACKG2013で定めた2020年の目標の達成をより一層確実なものとするため、ACKG2013を強化した。
主に内容について、「個の強化」では、培ったコア技術を元に、重点化事業に一層取り組むため、重点化事業に対する投資を強化し、重点化事業の推進により、ナンパワ・オンリーワンの技術・サービスを開発するとともに、既往事業へ展開し、技術・サービスの裾野拡大を図る。グループ各社の「個の強化」を推進し、2020年のグループ売上高500億円以上、グループ営業利益20億円（対売上高4%）以上を確実に達成する。	「連携の強化」は、サービス提供のあらゆる局面でグループのリソースを活用・融合させるため、グループ内外の連携と個の強化に繋がる「人材確保・育成」「基盤整備」を強化し、総合化・複合化する社会ニーズに対応する。人材獲得の強化、人材育成の仕組み改善により、社員数500人以上増、女性社員100人以上増をめざす。また、女性管理職の確保・育成により、性別を問わず多様な感性を生かすことができる企業をめざし、女性管理職20人以上増を目標（対第9期（14年9月期）末比）とする。グローバルな雇用促進・海外研修制度の充実により、現地に根ざしたグローバル展開を推進し、グローバル人材200人以上増を目標（同）とする。
「3軸市場の競争力強化」は、グループ内の柔軟な人材活用、技術の有効活用など、グループ各社のフランドとリソースを相互に活用できる基盤整備を進め、3軸市場が、それぞれ自律的な成長と3軸市場間の連携を図り、グループとしての総合力を発揮する。「国内公共」は、インフラ保全、防災・減災による安全・安心、地域のコンパクト化や社会インフラの最大活用による地域活性化など、地域課題の解決に取り組む。「国内民間」は、海外・国内公共で得た技術・ノウハウを駆使し、ワンストップで技術・サービスを提供する。「海外」は、ODA（政府開発援助）、国内事業で培われた本邦技術や経験豊かな人材を海外事業に活用し、より高度で総合的なサービスをグローバルビジネスに展開する。	15年9月期の組織体制については、3軸市場の競争力強化に向け、市場毎に組織を集約するとし、国内公共では、ACKグループの子会社であるオリエンタルコンサルタンツを、グループの国内公共市場におけるリーディングカンパニーとすることを打ち出している。